昭和63年度　名古屋大学教育学部心理教育相談室活動報告

Ⅰ　相談活動

1．昭和63年度　新規相談受理件数

本年度の新規受理面接者101名の年齢，性別，主訴は，表1，2，3，に示したとおりである。

年齢では幼児・児童が40%，思春期以降が60%であった。ちなみに62年度は25%と75%であったが，その前年の比率と同じであり，この辺が大体平均的な値であろうと思われる。

性別では，男子・女子ちょうど半々であった。昨年度は男女6：4の割合であったから，今年度はとくに成人女性が増えたことが特徴的といえる。

主訴は表2，3にあるように，幼児・児童では「精神発達遅滞」「登校拒否」「自閉傾向」が上位を占め，この三者で約70%になっている。思春期以降では「登校拒否・学校不適応」と「神経症圏の問題」で65%を占めており，登校拒否は全体で約3割，主訴別でトップの座をあいかわらず保ち続けている。神経症圏では昨年に引き続き，アパシーが目立っている。こうして主に登校拒否，アパシー，発達の遅れ，に対する援助を，当相談室は期待されていることがわかる。そして境界例の増加，および個人と家族のライフ・サイクルをめぐる危機的問題，たとえば中年期の子離れなど，は時代の趨勢によるものであろう。

2．面接種別受付件数

面接種別に各月ごとの数字をあげたものが表4である。全面接件数は3,049件であり，前年度とほとんど同じであった。中でも「臨床心理面接」が圧倒的に多いのは，昨年のこの欄で報告したように，さまざまな意味で継続しているケースの面接だからである。子供の「遊戯面接」と親の「心理教育面接」が併行して行われることも多い。いずれにしても大盛況であり，各部屋の使用状況はすでに限界にきており，新規受付もかなり待ってもらわなければならない事態にあって，今後積極的な展開の方向が模索されなければならない。

Ⅱ　研究活動

研究活動は，本相談室の目的三機能，すなわち実践・研究・教育の三本柱の重要な一角であり，リサーチ・カンファレンス，各研究会活動，五大学院合同症例検討会，学会参加，本相談室の紀要発行等々，本相談室においてもさまざまな活動が活発に行われている。ここでは例により，次の二点についてのみ報告しておくことにしたい。

表5に63年度のリサーチ・カンファレンスの記録を示した。今年度は6回と少ない回数であり，またほとんど

表2　12歳以前の診断（主症状）別受理面接件数

診断（主症状）	件数	(%)
精神発達遅滞	12	(28)
登校（園）拒否	9	(22)
自閉傾向	9	(22)
強迫（症状）	3	(7)
集団不適応	2	(5)
てんかん	1	(2)
ヒステリー	1	(2)
チック	1	(2)
吃音	1	(2)
学習障害	1	(2)
緘黙	1	(2)
正常範囲（発達検査）	1	(2)
計	42	(100)

表1　昭和63年度 受理面接ケースの年齢，性別

	乳幼児（0～3）	就学前（4～6）	小学生（7～12）	中学生（13～15）	高校生（16～18）	大学生（19～）	成人	計
男	4	10	12	6	11	1	7	50
女	4	4	8	4	3	2	25	51
計	8	14	20	10	14	3	32	101

表3　13歳以降の診断（主症状）別受理面接件数

診断（主症状）			(%)
登校拒否，学校不適応	21		(36)
神経症圏の問題	17		(29)
アパシー		6	
対人恐怖		2	
ヒステリー		2	
恐怖症		1	
インポテンツ		1	
抑うつ		1	
不安神経症		1	
その他		3	
人格障害圏（境界例）	6		(10)
精神病圏（精神分裂症）	4		(7)
子どもの問題	3		(5)
中年期の子離れ		2	
育児不安		1	
性格（仕事）の問題	2		(3)
夫婦問題	2		(3)
自閉傾向	2		(3)
摂食障害	1		(2)
非行傾向	1		(2)
計	59		(100)

に乗せたいところである。

今年度の五大学院合同症例検討会は九州大学のお世話で，63年7月9日から11日にかけて福岡の志賀の島で行われ，多くの大学院生，教官が参加した。ここでの発表で他大学の先生がたからも親しくコメントを頂いたのを機に，のちにそれらが論文として精練されていくということが，何人かの院生に見られたのは収獲であった。

（池　田）

表4　昭和63年度　面接種別相談受付件数一覧

面接＼月	63年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成元年 1月	2月	3月	計
受理面接	10	11	8	12	7	6	15	6	5	4	8	9	101
教育指導面接	0	2	3	1	2	3	1	3	1	2	1	2	21
検査面接	0	1	1	0	1	3	0	0	0	1	0	0	7
遊戯面接	61	54	67	62	37	77	75	61	64	66	76	87	787
臨床心理面接	109	105	127	94	68	117	130	134	102	101	97	93	1,277
心理教育面接	57	58	82	71	38	83	100	67	71	71	74	84	856
計	237	231	288	240	153	289	321	271	243	245	256	275	3,049

が外部からの話題提起で内部からの研究発表がきわめて少なかった事は残念であった。せめて回数だけでも二桁

表5　昭和63年度 リサーチ・カンファレンス一覧

	年月日	主　　題	所　　属	話題提供者
1	昭和63年 5月20日	The state of psychology in California	UCLA	G. L. Kaufman 氏
2	6月17日	教師と心理臨床	椙山女学園大学	長岡利貞氏
3	10月21日	Tic 及び Gilles de la tourette 症候群に関する臨床心理学的研究	愛知医科大学	森谷寛之氏
4	12月2日	トイレ不安と自我発達　―トイレから電車へと興味の移行していった事例よりの考察―	愛知学泉短期大学	後藤秀爾氏
5	12月23日	自閉症の治療教育の諸問題	筑波大学	小林重雄氏
6	平成元年 2月20日	最近の非行とその周辺の問題行動	千葉大学	安香　宏氏